

広報第一五〇号発行にあたって

組長 紘澤成互

第二四組広報が発刊されて、もう二五年。当時の磯野組長の第一号に始まり、この度、記念すべき「第一五〇号」となりました。当初はガリ版刷りだったと記憶しています。この間、広報委員会が創設され、今では寺族部会を始めとして、各部会から選出された四人の方々により企画・原稿依頼・編集・校正などとして戴いています。今まで広報に携わって戴いた皆様のご苦勞に心より御礼申し上げます。

最近の号では、婦人会代表者の紹介・組の同朋大会・二四組総会・門徒会総会の記事等が掲載されています。また、組で初めて取り組んだ「暁天講座」も記事にして戴きました。そして、特色のあるお寺の行事を紹介する「お寺訪問」のスペースを設けるなど、充実した広報となっております。

更に、昨年の七五〇回ご遠忌の記事や、教区の行事の案内など、私達に関わる宗門や教区の動きも紹介されています。

こうした広報を通して、一人でも多くの方々に仏法に出会って戴きたいのです。加えて、一人でも多くの皆様に「聞法の輪」の中に入って戴くようお願いしています。今後ともご支援の程よろしく願います。

祝 広報第一五〇号

継続は力なり

広報委員会委員長 秦 信映

昭和六十二年に、当時の磯野泰恵組長が、組内寺院・門徒間の交流の機関紙として発案され、当時副組長をしておりました私が編集委員に任命され、数名の方々と共に作業をさせていただきました。振り返れば既に二十五年が経ち、今回で一五〇号を数え、今又その編集に携わらせていただいていることに驚きながら、深いご縁を喜んでおります。

当時は、用紙も粗末なもので手書きで作成していたことを覚えています。年に一〜二回の発行で内容は主に組の行事の案内でした。ガリ版刷りで十年程経ってから教務所で印刷させていただくようになりました。広報委員会ができましたのは十年ほど前からで、それまでは個人のご尽力をお願いしておりました。八年前が丁度百号でしたから、それ以降広報委員会というしつかりとした組織で企画・編集等なされ、年六回の発行を守り、今ではパソコンでデータを入力し、印刷を業者をお願いし、紙面も読みやすくなり、組の有意義な教化事業の一つとなりました。このような取り組みは全国どの組に行きましても無いと思っています。「継続は力なり」という言葉を改めてかみしめています。これからも、皆様いろいろな情報をご提供し親しみのある広報紙になるよう努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

「声明講習会」を終えて

壮年会副会長 富永啓二

去る、九月八日（土）に西野の充滿寺で「声明講習会」を壮年会主催で開催いたしました。声明講習会はお勤めにかかる勉強会で例年は寺族や坊守の皆さままで開催されておりましたが、昨年度から正信偈や念仏和讃を勉強する機会として、門徒会、婦人部会、壮年会の皆さまにも参加をいただいで開催しております。

ご講師は昨年もお世話になりました米原市真廣寺の竹中慈祥先生に三ゆり念仏和讃についてご教授いただきました。

当日は雨模様の天候にもかかわらず五五名もの皆さまに参加いただきました。講習会では念仏和讃を中心に初重、二重、三重の音程の違いや節符の見方、そして「ゆり」の法則など丁寧にご教授いただきました。日頃から正信偈も和讃も何気なく読ませていただいでおりましたが少し意識してお勤めしてみようと心新たにしましたところです。

今回は念仏和讃までを学びましたが来年回向を教えてくださいたくことをお願いして講習会を閉会いたしました。



上山奉仕に参加して

圓常寺（千田） 林 幸夫

神無月下旬の京都は天高く青空でした。この十月二十日より三日間真宗本廟本山において上山奉仕をさせていただきご縁をいただきました。この三日間で真宗の真髓にふれさせていただいた感じでした。本山は現在大規模な工事中にもかかわらず、日本全国津々浦々から宗祖親鸞聖人の御教を求めて、木堂の御影に膝まづいて頭を下げておられる姿を拝見して、真宗の『ありがたさ』を御影堂の正面階段の清掃時に感じさせていただきました。この三日間の研修で久しぶりに集団宿泊をしました大きな意義は色々ありましたが、その二・三を紹介してみます。

第一は宗祖親鸞聖人の御遺徳が真宗門徒のみなさんの心の中に脈々と受け継がれていること（法義相続）

第二は研修会で得られた多くのことを地域の門徒衆へ還元できること（『まんが親鸞聖人』を本山の土産として持ち帰れることの喜び・幸せ）

第三は、この貴重な体験を家族・親類にご報告出来ることの意味の深さ（夕事勤行での感話をさせていただいたこと）等々日頃そう簡単に味わうことのできない幸福感・充実感に満ちた三日間でした。



うきうき！ うちしきづくし

打敷

11月10日（土曜日）

午前10時から12時

場所は慶福寺さん（高月町横山）

持ち物：お勤めの本・お念珠・はさみ・油性マジック

どようにちようがっこう 土曜日曜学校がないお寺の方でも参加できます。みんなでステキな打敷をつくりましょう♪



参加ご希望の方はおてつぎのお寺さんへお申込みください。

みなさんのご参加をおまちしています。

（担当 青少年部会）



お寺の掲示板

浄教寺（高月町東阿閉）

百五十号を記念して、今回から新企画「お寺の掲示板」をシリーズ化してご紹介致します。

第一回は高月町東阿閉の浄教寺様を訪問致しました。東阿閉は百戸近い戸数があり、お寺は比較的人通りの多い場所にありました。門の横に掲示板が設置されていて、「願いの中に自分が生かされている」という、東井義雄先生のお言葉が書いてありました。

川那部恵龍住職にお尋ねすると、月に二回坊守様と相談されて掲示することでした。内容は、本を読んだり聴聞した中で、心に響いた言葉や同朋新聞等を参考に決めていくそうです。見られた区民の方から時々「よい言葉が書かれていますね」「この言葉はどこに出ていますか？」等尋ねられることもあり、掲示板を通して、聞法の輪が広がって行く確かな手ごたえを感じられながらお話しくださいました。

三十年前から始められた掲示伝導も、今では地域に根差した教化の場となっていました。

（取材・広報委員）

《御坊さん人生講座》

★日時 11月16日(金)
講師 足立幸子氏(大阪大学非常勤講師)
講題 「縁について思うこと」
会場 長浜別院大通寺
時間 午後7時～8時半
受講料 500円

《しんらん講座》

★日時 11月26日(月)
講師 一楽 真氏(大谷大学教授)
講題 「歎異抄に聞く」
会場 五村別院
時間 午後2時～4時まで
受講料 500円

各寺の法座のご案内

寺院	法座名	期日	法話者
浄教寺(東阿閉)	報恩講	11月30日・12月1日・2日	宮尾 卓氏
恩覚寺(西阿閉)	報恩講	11月3日(土)・4日(日)	住職
覚勝寺(西阿閉)	報恩講	11月9日(金)～11日(日)	住職
圓行寺(西柳野)	報恩講	11月2日(金)～4日(日)	住職
妙覚寺(東柳野)	報恩講	11月30日・12月1日・2日	藤本 勝氏
梅龍寺(磯野)	報恩講	11月3日(土)・4日(日)	住職
双林寺(西物部)	報恩講	11月22日(木)・23日(金)	
猶存寺(布施)	報恩講	11月16日(金)～18日(日)	住職
長照寺(唐川)	報恩講	11月3日(土)・4日(日)	高岡淳氏・住職・副住職
来入寺(千田)	報恩講	11月9日(金)～11日(日)	住職
明德寺(黒田)	報恩講	12月7日(金)～10日(月)	佐藤義成氏
樹徳寺(田居)	報恩講	11月9日(金)～12日(月)	秦 信映氏
誓海寺(大音)	報恩講	11月9日(金)～11日(日)	住職
明源寺(今市)	報恩講	11月10日(土)・11日(日)	伊藤賢隆氏

報恩講によせて

私たち真宗門徒が宗祖と仰ぐ親鸞聖人は、1262(弘長二)年11月28日に、そのご生涯を終えられました。宗祖が果たされたお仕事の大切さを讃え、文字どおり恩徳に感謝し報いるためのおつとめが報恩講です。一人ひとりが自分の生活を振り返り、宗祖の教えの意義を確かめる、一年でもっとも大切な御仏事です。

聖人のご一生は、「ついに念仏の息たえましましおわりぬ」と、まさに念仏に貫かれたものでした。この現実社会を生きていく中で、私たちは本願念仏の教えがどれほどかけがえのないものであるのかを確かめる機縁として、いただいていた報恩講を大切におつとめしていきたいものです。